

第3学年3組 道徳学習指導案

平成24年5月29日（火）第4校時

授業者 教諭

1 主題名 「いじめ」を考える 2－（3）信頼・友情

2 資料名 「いじめ」なんてしたくない（日本標準）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

集団生活を行う子どもたちにとっては、お互いのよさを認め合い、助け合いながらお互いを高めていくことのできる学級が理想である。しかし、現実を目を向けると「妬み」「嫌悪」「差別意識」などの理由から、「いじめ」はどの学級にも起こりうる可能性を秘めている。そこで、「いじめ」の発生を防ぐために、「いじめはいやだ」という心情や、「いじめを許さない」という実践意欲と態度を育てたい。そして、このような道徳的実践力を育てていくことが、友情を深めることにつながっていくと考える。

(2) 児童について

男子13名、女子17名、計30名の学級である。本学級の子どもたちは、明るく素直な児童が多い。困っている友達に声をかけをしたり手助けをしたりする姿も見られる。また、友達のよいところを見つけようとする優しい目ももっている。さらに、全員が「いじめ」とはどのようなものかということについての考えをもっており、大半の子が「いじめ」に対して自分ができることを分かっている。しかし、友達の失敗や欠点をからかったり、仲良しグループをつくり、他の友達を排除しようとしたりする姿も見られる。そして、その言動が「いじめ」につながることに気が付いていない児童もいる。また、観衆や傍観者を「加害者」と考えている児童は少ない。

(3) 資料について

「いじめ」についての見方・考え方や「いじめ」と自分とのかかわりに気付かせるために、教室内でいじめを描いた1枚の絵を資料とする。この絵には、いじめについての多くの情報が入っているため、児童は「いじめの具体的な姿」を理解し、互いの「いじめ」に対する考え方の違いを明らかにすることもできるであろう。そして、「いじめ」について加害者と被害者の両方から自分の経験と重ねて考えたり、これまでの自分を振り返ったりすることがしやすいと考える。

(4) 指導について

本校の今年度の研究主題は、「未来につながる力をもつ子どもの育成」である。集団生活の中で互いに気持ちよくよりよい関係を築いていくためのかかわり方を考えることは、これからの生活に大変重要なことであり、「未来につながる力」となる。そこで、ある学級の様子を描いた資料を用いて、「いじめ」について考えさせ、「これからの自分」の行動のあり方に繋げたい。

時間をかけて深く考えていくために、指導を2時間配当で行う。

第1時である本時では、まず、資料の絵の中から「いじめを感じる場面」を発見させ、グループでなぜ「いじめ」と感じるかについて話し合わせる。話し合うことで、自分が「いじめ」をどのようにとらえているかを認識させたい。そして、いじめとはどのようなものであるかという「いじめの具体的な姿」や「いじめの定義」を理解させる。そして、そこで発見したことをもとに「いじめている人」「いじめで不幸せになる人」についても考えさせていく。その後、「いじめで不幸せになった人」の話をし、いじめられた子やいじめた子の悲しみや苦しみに触れさせたりすることで、「いじめは許さない」という心情を育てていきたい。

第2時では、被害者、加害者、観衆・傍観者への言葉がけを考えさせることで、「これまでの自分」を振り返らせたり、「これから自分はどうか行動するか」について考えさせたりして「いじめを許さない」という思いを育てていきたい。そして、友達と仲良く、助け合って生活していこうとする態度も育てるようにしたい。

4 指導計画（2時間配当）

第1時 「いじめ」についての見方・考え方を広げたり深めたりする。

（本時）

第2時 「いじめ」について、これまでの自分を振り返り、これからの自分を考える。

5 本時のねらい

「いじめ」についての見方・考え方を広げたり深めたりして、「いじめは許さない」という心情を養う。

6 準備物

場面絵（提示用と児童用）

7 本時の展開

過程	主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
気 付 く	1 提示した絵の中の人物の関係を話し合う。 ○3人の男の子の様子を話しましょう。 ・黒板に落書きをしている。 ・見て、楽しんでいる。 ・「やめろ」と注意している。 ・嫌がっている。	・3人の関係が、「いじめ」の「被害者」「加害者」「観衆・傍観者」であることに気付かせる。
考 え る	2 資料の絵の中から「いじめを感じる場面」を発見し、「いじめ」について考える。 ○絵の中に「いじめを感じる場面」はありますか。 ＜身体的な苦痛を感じる場面＞ ・ける、足をひっかける、など。 ＜精神的な苦痛を感じる場面＞ ・無視をする、物を隠す、など。 ○「いじめている人」とは、どんな人ですか。 ・直接いじめをする人（加害者） ・面白がって見ている人（観衆） ・見て見ぬふりをする人（傍観者） ○「いじめている人」のどんな言葉が聞こえてきそうですか。 ・むかつく、嫌だ、～したんだって、など。	・やっていること、表情など細かい所まで見るように声かけをする。 ・「いじめを感じる場面」は、「加害者」と「被害者」の両方に青で丸を付けるように伝える。 ・グループで話し合い、いじめと感ずる理由を伝えるようにする。 ・「いじめ」とはどういうことかまとめる。 ・どこまでが「加害者」と言えるのか考えさせる。 ・絵からは直接見えない「言葉」にも、「いじめ」につながるものがあることに気付かせる。
深 め る	3 「いじめで不幸せになる人」について考える。 ○この絵の中で「不幸せな人」「不幸せになりそうな人」はいますか。 ・いじめられている人（被害者） ・周りで見ている人（観衆・傍観者） ・いじめている人（加害者）	・「いじめで不幸せになる人」に赤で丸を付けるようにする。 ・グループになり、丸を付けた理由を話し合うようにする。 ・「加害者」「観衆・傍観者」に対しても「不幸せ」という視点で見るとよきにさせる。 ☆「加害者」「被害者」「観衆・傍観者」の存在に気付き、それぞれの立場を考えることができたか。（発言・絵への記入）
高 め る	4 「いじめで不幸せになった人」の話を聞く。	・「加害者」「被害者」「観衆・傍観者」のそれぞれの立場における「いじめによる不幸せ」の話を聞くことで、「いじめは許さない」という思いを高める。

8 授業の観点

・グループでの話し合い活動は、自分が「いじめ」をどのように捉えているかを認識させるのに効果的だったか。